

平成28年度
新潟大学歯学部同窓会学術セミナーⅠのご案内

歯科における医療安全管理対策
－事例から学ぶ医療事故の対応－

平成28年度同窓会学術セミナーⅠ「歯科における医療安全管理対策」のご案内をさせていただきます。

今回は本学2期生で口腔外科の分野で長年ご活躍されている横林敏夫先生にお願いしました。横林先生には30年間勤務されていた長野赤十字病院口腔外科で経験した医療事故、長野県内で起きた医療事故の具体例を裁判例も含め紹介していただき、その対応も合わせてご講演していただきます。

歯科口腔外科臨床に関わるすべての方々に有意義な講演内容です。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

日 程	平成28年5月15日(日) 10:30～12:00
形 式	講義
会 場	新潟大学歯学部講堂 (2階)
定 員	50名
参 加 費	4,000円
申し込み方法	4ページに記載
振り込み先	受講申し込み受付票に指定の口座
締め切り	平成28年5月6日(金)
問い合わせ先	同窓会学術(gakujutsu@dent.niigata-u.ac.jp)

※当日の申し込みはできませんのでご注意ください。

※申し込みが定員に達した場合は同窓会学術のホームページでお知らせいたします。

※自家用車で来られる方は構内か近隣の駐車場をご利用下さい(有料です)。

※キャンセルの場合、基本的に受講料の返金はありません。ただし、代理出席は可能です。
受講者が変更になる場合には事前にご連絡ください。

主催：新潟大学歯学部同窓会

歯科における医療安全管理対策 ―事例から学ぶ医療事故の対応―

群馬大学病院や千葉県がんセンターの腹腔鏡下手術事故、国立国際医療研究センター病院の造影剤誤投与による死亡事故など、医療事故が盛んに報じられ、病医院の安全管理に関する議論が活発化し、昨年10月には医療事故の収集分析することで再発防止につなげるための医療事故に係わる調査の仕組み等を医療法に位置付ける「医療事故調査制度」が開始された。

「医療事故」とは医療行為を原因として患者の生命、身体に何らかの有害な結果を生ずる場合の総称であり、「医療過誤」「偶発事故」「不可抗力事故」に分類される。この「医療事故」のうち、医療従事者が医療行為に際して注意すれば生命、身体に対する有害な結果の発生を予見して避けることができたのに、不注意により結果の発生を防止できなかった場合を「医療過誤」と言う。「医療過誤」の場合、医療従事者は刑事上は業務上過失致死傷罪に問われ、民事上は賠償責任を負い、そして、さらに医師、歯科医師免許の取り消し、医業の停止といった行政上の責任も問われる。

最高裁HPによると、医療関連訴訟の既済件数は平成18年の1139件をピークに減少し、平成26年は792件と減少しているが、歯科ではあまり変動がなく、平成26年の診療科別既済件数をみると、内科、外科、整形外科に次いで歯科は89件と比較的多い。歯科医療過誤は医科に比べて生命に関わる数が少ないことより、特に調査の手が行き届きにくい個人歯科医院においては、医療事故として処理されていないケースがあるものと思われるが、最近では全身に影響を及ぼす性質のものもあり、また、患者の権利意識の高まりや高度情報化社会の発展などにより今後は増えることも予想される。

歯科医療も一般医療と同様に、その当時の医療水準に即して適切な治療行為を成せば義務を履行したことになるが、一般医療とは異なり、1、歯の切削や抜歯後の復元再生の困難なものが少なくない 2、外貌に及ぼす影響が大きい 3、治療内容について適応可能な治療方法や使用する材料、材質が多種に及ぶケースが少なくない 4、緊急性が少ない 5、保険外診療が多い 6、治療に関して患者の協力が必要であり、患者の協力如何により治療の結果が大きく左右されるなど、歯科診療の特殊性がある。

平成24年NHKテレビの「クローズアップ現代」で「歯科インプラント治療に係わる問題―身体的トラブルを中心に―」という番組が放映されたが、この時の反響も大きく、国民の「安心、安全」に対する要望は、「食」と同様に、「医療」に対しても厳しい目が向けられており、いわゆる医療過誤を含めた医事紛争に対する関心は高まっている。

医療事故に対して効果的な対策を講じるためには、自院以外のケースを含め、過去に発生した医療事故の傾向を把握しておくことも不可欠である。

今回、30年間勤務していた長野赤十字病院口腔外科で経験した医療事故、長野県内で起きた医療事故の具体例を裁判例も含め紹介し、その対応も合わせ、以下の項目に分けてお話しする。

- 1、 一等歯科用器具による損傷、歯科用器具、材料の破折残存および迷入
- 2、 抜歯時の根迷入、顎骨骨折
- 3、 歯科治療による知覚神経麻痺
- 4、 皮下気腫、縦隔気腫
- 5、 異物の誤嚥、気管内吸引
- 6、 インプラント治療に関連する事故
- 7、 歯科矯正治療のトラブル
- 8、 医療事故が起きた時の対応
- 9、 医事紛争を起こさないための対策

講 師：

横 林 敏 夫

<学 歴>

昭和47年 3 月 新潟大学歯学部歯学科卒業

<職 歴>

昭和47年 6 月 新潟大学歯学部口腔外科学教室医員

昭和48年 5 月 新潟大学歯学部口腔外科学教室助手

昭和57年 3 月 新潟大学歯学部第一口腔外科学教室講師

昭和58年10月 長野赤十字病院口腔外科部長

平成25年 3 月 長野赤十字病院定年退職

平成26年10月 県立須坂病院歯科口腔外科顧問

現在に至る

<免許学位>

歯学博士 日本口腔外科学会認定医 指導医

<非常勤講師>

現 在 長野市医師会附属看護専門学校准看護学科

長野平青学園歯科衛生士科

長野医療衛生専門学校歯科衛生士科

長野医療衛生専門学校言語聴覚士科

<社会的活動>

現 在 長野県社会保険診療報酬支払基金審査員

関東信越厚生局長野事務所保険指導医

新潟大学歯学部同窓会長長野県支部長

<所属学会>

日本口腔外科学会 日本口腔科学会 日本口腔腫瘍学会

日本顎変形症学会 アジア口腔顎顔面学会

タイムスケジュール：

10：00 受付開始

10：30 講演開始

質疑応答 10分程度

12：00 終了予定

申し込み方法

- * セミナー申し込み方法はメールでの受付のみとなります。FAXによる受付は行いません。お間違いの無いようご注意ください。携帯から送信する場合は、必ずドメイン (@dent.niigata-u.ac.jp) 指定受信の設定をして下さい。
- * メールの到着順に、定員内の方には「申し込み確認票」をメールでご連絡致します。申し込み確認票に参加費の振込先及び入金期日を記載致します。入金期日までに参加費をご入金ください。期日までに入金がない場合にはキャンセルとして扱わせていただきます。
- * 定員外となった方は、自動的にキャンセル待ちとさせていただきます。定員外の場合にも、「キャンセル待ちのお知らせ」をメールにてご連絡致します。
- * 「申し込み確認票」もしくは「キャンセル待ちのお知らせ」がメール送信1週間後にも届かない場合には、何らかの問題でメールが届かないトラブルが考えられます。再度お申し込みいただきますようお願い申し上げます。

以下の必要事項を同窓会学術アドレス (gakujutsu@dent.niigata-u.ac.jp) にメールでご連絡ください。メールのタイトルは「同窓会学術セミナー | 申し込み」としていただきますようお願い申し上げます。

必要事項

氏 名 :

出身大学 :

何 年 卒 :

住所(含郵便番号) :

電話番号 :

メールアドレス :